

第2回TIAパワーエレクトロニクス・サマースクール開催報告

第2回TIAパワーエレクトロニクス・サマースクールは、TIAパワーエレクトロニクスWGと産業技術総合研究所主催のもと、8月24日～27日の日程で行われ、6月にオープンしたTIA連携棟（産業技術総合研究所 つくばセンターつくば西）を会場に、前回は上回る142名もの参加がありました。サマースクール運営に携わった筑波大学 只野博教授に話を伺いました。

第2回となる今回は、TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバルの一環として、サマースクールを開催しました。

講義は、スクール長の正田東京大学名誉教授によるパワーエレクトロニクスの歴史から始まり、パワーエレクトロニクスデバイス、回路、システムの基礎に関する講義、更に応用としての交通システムや電力ネットワークにおけるパワーエレクトロニクスの現状の講義、そしてパワーエレクトロニクスの世界をSiCデバイスで劇的に変化させようというアグレッシブな報告等、幅広い内容で行いました。

最終日には、ドイツから著名な研究者2名を招き、国内の2名を含め最新技術の講義を英語で行いました。国際的な最先端研究に触れ、受講生たちは熱心に聞き入っている様子でした。

- 第1日目 パワーエレクトロニクスの基礎：5コマ
- 第2日目 パワーエレクトロニクスの応用：4コマ
- 第3日目 パワーエレクトロニクスの最前線（英語）：4コマ

見学会（オプション）

- Aコース：（株）高岳製作所 小山工場
- Bコース：TIA-nano関連施設
- Cコース：（公財）鉄道総合技術研究所

全体を通して、パワーエレクトロニクスに関する幅広い講義を集中的に聴講することで、受講生はより効果的にパワーエレクトロニクス研究に関する知識を吸収できたように思います。また、各講義後の質疑は非常に活発で時間が不足するほどであり、受講生の関心の高さ、意識の高さが伺えました。

1日目の夕方に行った参加学生によるポスター発表では、発表内容に関する議論があちこちで展開され、学校間交流という観点でも十分な成果が得られたように思います。また、最終日には見学会が実施され、現場見学を通してさらにパワーエレクトロニクスに対する理解を深めることができ、非常に意義深いスクールとなりました。



只野博教授

筑波大学大学院数理物質科学研究科
電子・物理工学専攻
TIA連携大学院パワーエレクトロニクスコース
〔トヨタ自動車・デンソー〕
パワーエレクトロニクス寄附講座教授

開催日	2013年8月24日～8月27日（最終日：施設見学（希望者のみ））
場所	産業技術総合研究所 TIA連携棟
主催	TIAパワーエレクトロニクスWG、産業技術総合研究所
共催	筑波大学大学院数理物質科学研究科
後援	つくばイノベーションアリーナ (TIA-nano)
構成	講義13コマ+ポスター発表+パネルディスカッション+施設見学
参加人数	142名 内訳：学生86名（参加校25校（博士6名、修士67名、学士9名、高専4名）） 社会人56名（公的機関6（12名）、企業23社（44名））
表彰者	奨励賞3名

TIA連携大学院WG News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <http://tia-edu.jp>